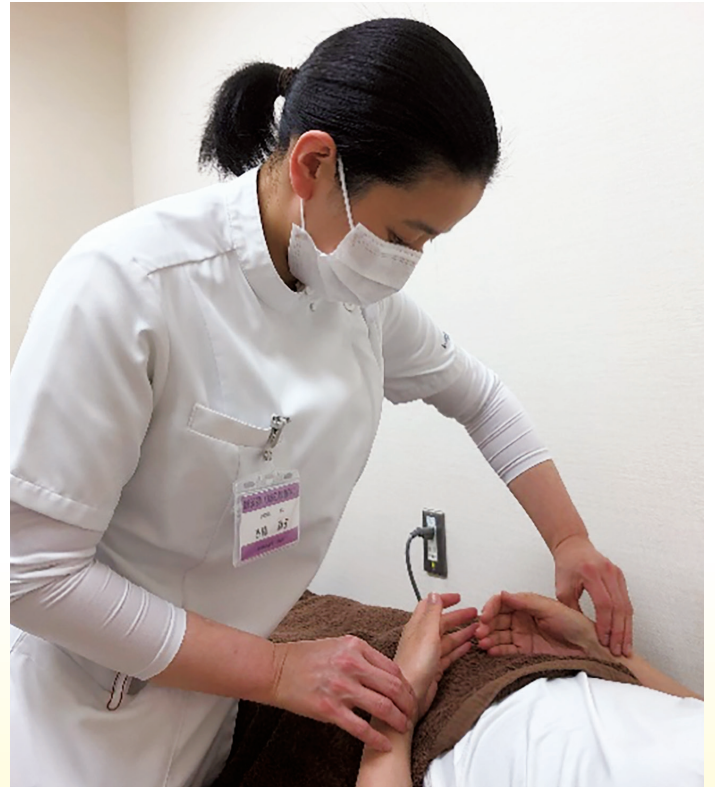


Hiroshima University Hospital News

漢方診療センター 体制を強化

専門医招き診療・教育や研究



鍼灸外来もスタート



漢方診療センターを強化



近年、科学的知見が増え、あらためて注目を浴びている漢方医学。広島大学病院にはその漢方医学を取り入れた漢方診療センターが設置されています。令和3年4月からは専任の漢方専門医小川恵子医師(写真左)を招請、6月からは岩橋麻子鍼灸師(写真右)が鍼灸外来をスタートさせるなど、さらに力を入れています。センターは平成27年8月、総合内科・総合診療科に設立、さまざまな科の医師や看護師、薬剤師からなるチームとして活動してきました。この春センター長に就いた小川医師から漢方医学について解説してもらいました。

漢方診療センターの小川恵子センター長に聞きました

漢方医学とは

独自に発展 西洋医学と併用で再評価

漢方医学は中国の伝統医学の影響のもと、日本で独自に育ってきた伝統医学です。漢方診療センターは、この漢方を専門とする診療科です。現代の標準治療は西洋医学に基づいています。しかし、漢方医学の価値は失われてしまったというわけではありません。西洋医学と漢方医学の関係は、一言でいえば「経糸(たていと)と緯糸(よこいと)の関係」です。漢方医学は身体や心に起きている事象を、西洋医学とは違う角度、違う切り口で眺めることができます。そのため、西洋医学に漢方医学を併用することの価値が再評価されています。

漢方医学には、湯液(漢方薬)、鍼灸、按摩が含まれます。特に漢方薬は昭和中期から保険医療に組み込まれ、日本は伝統医学と現代医学の両方の視点で患者さんを診る、世界で唯一の伝統医学先進国となりました。

個人の体質によって異なる処方

漢方医学では同じ病名の患者さんでも、個人の体質によって適する処方が異なるなど現代医学的な観点では評価しにくい側面があり「理解が難しい」「エビデンスが不十分である」という意見もあります。

効果的な漢方治療を安全に行うためには、漢方医学をきちんと習得した人材の育成と、効果や安全性を明らかにする研究を続けることが必要です。この漢方診療センターがそのような教育と研究の拠点となり、患者さんのお役に立つものとなるよう全力を尽くしたいと思います。

センターは蓮沼直子教授(大学院医系科学研究科医学教育)、岸川暢介講師(総合内科・総合診療科)にサポートいただきながら運営しております。さらに、経験豊富な以下の漢方専門医の先生方にも外来診療を担当いただいています。

中島正光先生(広島国際大学 教授)／武生英一郎先生(健康クリニック診療所長)／竹内啓佑先生(小坂内科医院 院長)／菊本修先生(いでした内科・神経内科クリニック 副院長)／石田亮子先生(地域医療システム学講座 寄附講座講師)

漢方薬とは

漢方薬は、元来は生薬を煎じて服用していましたが、現在ではエキス剤（顆粒や錠剤、カプセルなど）を用いることが多くなっています。当科では、これらの生薬や漢方薬のうち、保険収載されているものをすべて用いることができます。

どんな時に漢方

1. 西洋医学的治療を受けても改善しない症状
2. 西洋医学的には診断がつかないような症状
3. 効果的な西洋医学的治療に伴う副作用などさまざまな症状

など、現代医学だけでは治しにくい症状でお困りの患者さんに対し、各専門診療科と協力しながら治療していくことで、患者さんのために貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

鍼灸外来

痛くない接触鍼も

漢方薬は「内側から」鍼灸は「外側から」と、その治療方法を例えられるように、漢方薬と鍼灸はとても相性の良い治療方法です。鍼を刺さずに治療する「接触鍼」も行っていますので、痛いのは苦手だと思う方も一度ご相談ください。

※鍼灸外来(自由診療)を受診するためには、あらかじめ漢方診療センターを受診してください。



2021年6月
鍼灸外来がスタートしました。

場所：総合診療科 診察室
曜日：金曜・午後

費用：1回1時間程度
6200円(税込)

※自由診療となりますので保険は使用できません。



ご注意

- 混合診療を避けるため、鍼灸を受診する日には、保険診療を受けることができません。
- 鍼灸治療を受けるためには、事前に漢方診療センターを受診する必要があります。
- 予約から15分以上遅れてきた場合には、治療を受けられないことがありますのでご注意ください。

広島大学病院
総合内科・総合診療科
漢方診療センター

ニュースアップ

歯科医師による新型コロナウイルスワクチン接種のための研修会を開催しました

新型コロナウイルスワクチンの接種を担う人材の確保が課題となる中、広島大学は全国の大学に先駆けて、大学病院と歯学部、大学院医系科学研究科に所属する歯科医師を接種会場に継続的に派遣することを決定し、対応にあたる歯科医師への研修会を開催しました。

厚生労働省は4月末、新型コロナウイルスワクチンの基礎知識や筋肉注射の実技研修の受講等を条件に、歯科医師がワクチン接種を行うことを特例として認める通知を出しました。

厚生労働省の通知に基づき、学習システムを使用した新型コロナウイルスワクチンの基礎知識、アナフィラキシーとその対応などに関する動画の視聴を終えた歯科医師が、実技研修を受講しました。

実技研修会では、感染症科の大毛宏喜教授から接種の方法や注意点などの説明を受けた後、模擬装置を使って上腕への筋肉注射を打つ実習を行いました。注射器の持ち方や打つ場所を教わり、安全に接種するための指導を受けました。研修を受講した歯科医師は「普段、診療で口の中に注射をすることはあるが、研修を受けて安全に、かつ確実に接種を行いたい」、「ワクチン接種の打ち手不足が問題になっているので、少しでも手助けに貢献できればと思います」と話していました。実技研修会は5月26日から6月11日まで計9回実施し、180人が受講しました。

研修を受けた歯科医師は広島県や広島市などが実施する新型コロナウイルスワクチン接種会場に派遣されます。



てんかん啓発 サンプル協力でポスター

広島大学病院てんかんセンターはJ1サンプルレッチェ広島とコラボして、てんかん啓発を呼び掛けるポスターとチラシを制作しました。県や地方の医師会、調剤薬局などに配布し、関心を高めてもらう一助にします。

ポスターはA2版で、『世界に広がる「てんかん」啓発キャンペーン PURPLE DAY』と記し、紫をイメージカラーにしたキャンペーンをアピール。同じ紫をチームカラーにしているサンプルレッチェ広島の協力を得てメンバーの集合写真を配しています。

広島大学病院・行政などで構成する広島県の「てんかん治療医療連携協議会」や、県薬剤師会の副会長を務める本院の松尾裕彰薬剤部長らを通じて県内の約1500薬局をはじめ、各市郡地区の医師会、市町の子精神保健福祉担当窓口などに配布し、掲示してもらっています。

広島大学病院てんかんセンターの飯田幸治センター長は「啓発活動の一環としてポスターを作成しました。多くの人の目に留まり、正しい理解や治療につなげていただければ」と話しています。



ポスターを見ながら話す松尾薬剤部長と飯田てんかんセンター長

栄養管理部
情報

夏の疲れに ねばねば食材



担当した管理栄養士

ねばねばの成分は主に
「水溶性食物繊維」と「糖たんぱく質」です。

ねばねばのはたらき

- 胃腸や呼吸器などの粘膜を保護し、免疫力アップ
- たんぱく質の分解を助ける酵素をもち、消化吸収をサポート
- 血糖値の急上昇を抑制
- 腸内環境を改善して便秘予防



ねばねば成分を含む食材



オクラ



モロヘイヤ



山芋



めかぶ



納豆



なめこなど

ねばねばに香味野菜や夏野菜も取り入れてみましょう

香味野菜



生姜



大葉



みょうが



にんにくなど

旬の夏野菜



トマト



なす



ピーマン



きゅうりなど

食欲増進効果

カリウムや水分、ビタミンが豊富

〈レシピ〉モロヘイヤとトマトの和え物

〈材料〉	4人分	〈作り方〉
モロヘイヤ	1束(100g)	① モロヘイヤとトマトは食べやすい大きさに切る。生姜は千切りにする。
トマト	1個(180g)	
生姜	10g	② 沸騰したお湯でモロヘイヤを茹で、冷水にとる。
醤油	大さじ1	
みりん	大さじ1	③ ②の水気を絞り、切ったトマト、生姜と混ぜ、調味料で和える。
顆粒だし	小さじ1/2	

【栄養価(1人当たり)】
エネルギー:33kcal
たんぱく質:2.0g
脂質:0.2g
炭水化物:6.2g
食塩相当量:0.75g

診療科最前線

「心臓血管外科」

(診療科長:高橋信也教授)



▶ 診療科の特徴

心臓と大動脈、そして首から下の血管(末梢血管:動脈と静脈)を主な治療対象としています。心臓に関しては、循環器内科と連携し、外科的治療が必要となった段階からの介入を行います。大動脈に関しては、内科的診療やフォローアップも含めて総合的に行っています。末梢血管では狭くなったり、詰まった血管に対する治療だけでなく、透析に必要な動脈と静脈をつなぐシャント作成や、静脈瘤の治療を含めて、さまざまな血管に関する診断と治療を行っています。

▶ 患者さんの動向

毎月15名ほどの初診患者さん及び、400名ほどの再診患者さんを診療しています。初診患者さんは、ほとんどが手術適応とされた方々をご紹介いただいておりますが、最善の治療法を探求するため、今一度内科でも診療させて頂くことがあります。再診患者さんは、術後1年単位でのフォローアップで、心臓超音波検査や造影CTにより、病態把握を行っています。

▶ 得意分野

成人の全ての心臓血管外科領域の治療を行っています(小児は臨床教授のいる土谷総合病院で行っています)。負担の少ない小さな傷で手術を行う、という最近の流れを汲んだ術式を多く取り入れています。弁膜症(僧帽弁、大動脈弁、三尖弁)の治療は、多くの患者さんに対して、胸の中央を切開す

るのではなく、右胸を8-10cm程度切開して、肋骨の間からのアプローチで手術しています(低侵襲心臓手術)。また、TAVI(経カテーテル大動脈弁移植術)やMitralClipといった弁膜症に対するカテーテル治療も循環器内科と一緒にハートチームとして行っています。冠動脈バイパス手術も、症例によっては左小開胸の手術を行っています。心房細動に対しては、胸腔内視鏡を用いたウルフ-大塚手術を、大動脈瘤も多くはステントグラフトによる小切開手術を行っています。適応の判断は非常に重要で、最新の内科的方法や、従来の方法も含めて最良の方法をハートチームで選択するようにしています。

▶ かかりつけ医との連携

手術後のフォローアップは、かかりつけ医の先生方と常に連携をとりながら、1年毎に心臓超音波検査やCTでの精密検査を行っています。かかりつけ医の先生から相談がある時は、早目の受診、診察をさせて頂いております。患者さんから直接の相談も多く、迅速に対応しています。外来日は火曜日と木曜日ですが、何かあると命に係わる科ですので、24時間365日、連絡があれば可能な限り素早い対応をするように心がけています。

▶ 新しい動き

低侵襲手術が毎週のように行われるようになっており、さらなる進化として、手術支援ロボットDa Vinci(ダヴィンチ)を用いた僧帽弁手術やCABG(冠動脈バイパス手術)にも取り組んでいく方向で準備を進めています。



催しのご案内 (2021年7月~12月)

世界肝炎デー企画 市民公開講座

視聴期間: 7月26日(月)~9月12日(日)

内容: 1. 肝炎について

講師: 広島大学病院消化器・代謝内科 助教 村上英介 医師

2. 肝硬変の合併症~腹水、肝性脳症、食道静脈瘤の治療について~

講師: 高陽ニュータウン病院 副病院長 高橋祥一 医師

自宅で学べる 肝臓病教室

視聴期間: 9月13日(月)~12月12日(日)

内容: 肝臓病に対する外科的治療

問い合わせ先: 肝疾患相談室

☎082-257-1541(10:00~16:00)

開催方法: 肝疾患相談室ホームページからの視聴(講演動画配信)
URL: <http://shounai.hiroshima-u.ac.jp/counseling/>
(「広大 肝臓病教室」で検索)

申込: 不要



がん治療を支える 患者サロン

申し込み・問い合わせ先

がん相談支援センター

☎082-257-1525

頭頸部がんの最新の治療について

7月21日(水) 13:30~14:30

会場: 臨床管理棟3階 3F4会議室+zoom

講師: 頭頸部外科医師 上田勉

会場参加10名と、zoomによるオンライン参加も可能です。新型コロナウイルスの感染状況によっては、変更もあります。